

緑のまち

— 北国分だより —



第49号 2000. 5. 10 発行

編集 北国分外環対策協議会
市川市北国分 2-20-12 三宅方
tel 047-372-5381

「道路特定財源（4兆円）を見直せ」

有力野党代表が心強い発言

これが外環ストップの最短コース

「道路特定財源の見直して行財政改革を」——有力野党の代表が記者会見で、こう語った。

「道路特定財源」とは、ガソリン税など自動車関連の税収を道路整備だけに特定して使わせる制度。年間4兆円にも上り、公共事業費の7割を占める道路整備費の源泉として建設官僚と族議員のドル箱になってきた。早くから建設大臣をつとめ“建設族”を牛耳った自民党の金丸元副総裁が、金の延べ棒をためこんで政界のドンになったのも、こういう玉手箱があったからに違いない。

総選挙で野党政権が出来て、外環予算の蛇口を元から閉めてしまえば、1m1億円の大赤字道路なんて出来なくなるぞ。

なるほど、なるほど。

“平成の徳政令” 債権放棄ひろがる

大手ゼネコンなどへの銀行の債権放棄が流行している。堀之内の区画整理をやった青木建設は2000億円、北総鉄道のトンネル工事を請け負った佐藤工業が1000億円など、巨額の借金棒引きを銀行に認めさせている。

納得できないのは、これらの銀行がいずれも巨額の公的資金を導入していること。つまり、国民の税金が、回り回ってゼネコンに注ぎ込まれたことになるからだ。

中世の徳政令は、凶作などに苦しむ庶民の借金を棒引きにした。おれたちの借金は、どうしてくれる。

ごあんない

森の音楽会も回を重ねて7回になりました。

今回ははじめて市内在住のクラシック演奏家のご協力を得ました。

昨年之三番瀬コンサートにも出演され、大変好評でした。

うすみどり色の若葉がゆれる、このいちばん美しい季節の小塚山と
音楽をご堪能ください。

[第7回]

森の音楽会

—— チェロとフルート演奏 ——

平成12年5月28日(日) PM 1:30 ~4:00

小塚山あずまや

演奏：伊藤耕司(チェロ)

黒田育子(フルート)

佐野雅子(シンセサイザー)

[演奏曲目]

サンサーンス

白鳥

久石 譲

風の谷のナウシカ

F. ドップラー

ハンガリー田園幻想曲

ほか

出演：緑のまち合唱団



同時開催 チャリティ展示即売会

竹内庸悦画伯 水彩画

“小塚山 森のスケッチ”

主催 小塚山森の音楽会実行委員会

雨天の場合は、会場を小塚山研修所内に移します。

出演者のプロフィール

黒田育子（フルート）

東京芸大卒。1978年フランス留学、クリスチャン・ラルデ、故マルセル・モイーズ、ジャン・ピエール・ランパルの諸氏に師事。1979年帰国後は、室内楽、オーケストラとの共演、リサイタルなど数多くの演奏活動が続ける。最近では市川市で年間数回のコンサートを企画・演奏し、昨年船橋市での三番瀬コンサートでも好評をえた。

伊藤耕司（チェロ）

東京芸大（チェロ専攻）卒。故堀江泰氏、レイヌ・フラショー、安田謙一郎の諸氏に師事。現在フリーのチェリストとして、室内楽・オーケストラとの協奏曲出演、シャンソンのオブリガートチェロ演奏者など、幅広い分野での演奏活動を行う。1999年11月、東京オペラシティ・リサイタルホールでリサイタルを開催し好評を博した。

佐野雅子（シンセサイザー）

大妻女子短大卒。武藤弘美、伊藤耕司、ピーター・コッラジオの各氏に師事。1996年、世界平和協会の例会で、チェロコンサートの伴奏を務め、1998年にはバッハのチェンバロ協奏曲を船橋弦楽アンサンブルと共演。このほか管弦楽・弦楽器・合唱の伴奏とピアニストとして数多くの演奏会に出演している。

—— 緑のまち合唱団 ——

新曲「明日をひらく」を披露します

このほど6曲目の創作曲「明日（あした）をひらく」が完成し、森の音楽会に向けて練習に取り組んでいます。森をなくし、空をよごし、文化をとぎす巨大高速道路の建設から21世紀のかけがえのない地球環境を守るには、今どうすればよいのでしょうか。そんなやむにやまれぬ思いから創られた新曲です。

歌詞は「さあもう一度未来のために 夜明けを告げるうた高く」と結んでいます。うたっていると心が暖かくなり、希望が湧いてきます。とても歌いやすく共感していただける曲だと思います。

〈森の音楽会で歌う曲〉 「明日をひらく」 「森よ とわに」
「ビリーヴ」 「この緑いつまでも」

クロマツを植えよう

小塚山の森に

幼な子から高校生もまじえたファミリー何組かもいれて40人が集まりました。市の公園緑地課提供のクロマツ 100本を、小塚山南側斜面に植えました。全員が実に楽しそうに穴を掘り、ペットボトルの水を掛けなんと30分で終了してしまいました。

市川テレビの取材もあり、全員で記念撮影し、今後のケアの水遣りをお願い、次回実現できたら、また協力していただけるようお願いして散会しました。



惜しんでもあまりある麻生優先生

小沢 剛

4月の日曜日。先生が亡くなられたなんていまも信じられない気持ちです。

十数年前、「史跡めぐり」を開催したとき案内役を気がるに引き受けていただきました。先生は、「考古学は歴史の謎を解く学問です」といわれました。この言葉がきっかけになり、埋蔵文化財のことに関心を持てるようになりました。

小塚山の森のことが話題になったとき、先生は「堀之内貝塚が付近に在ることは、小塚山に集落の存在が考えられる」と説明されました。3年前、小塚山林内で縄文土器片が見つかったときも、私はこのことを思い出しました。また、あるとき市の考古博物館前の小径の斜面に土の色の変わったところを見て、先生に知らせたら、すぐに飛んできて、「小沢さん、これは住居址ではなさそうですね」と笑って教えてくれました。私はこんな先生の人柄から多くを学んだものでした。

先生から、もうわくわくするような話や知識が豊かになることが聞けません。でも先生が遺されたたくさんの業績を汲みとってゆけます。北国分や市川市の尊い文化遺産をいまと将来へ伝える仕事に力をつくします。悲しみをこえて。

外環工事の都合で、遺跡調査をあいまいにしない

— 県文化財センターが約束 —

4月15日、歴史博物館講堂で住民側が開いた緊急説明会で、参加者から「堀之内貝塚付近（堀之内南遺跡）の発掘調査で、道免き谷津の低地5～6m下から縄文時代のトチの実加工場所と思われる遺構、木製品、土器、石斧が発見されたが、調査を途中で止めたのはなぜか」「突然、北国分1丁目、小塚山付近のルート上の遺跡調査を始めようとしているが、外環計画の都合で調査を食い散らかしているようにとれる」の声があり、出席した建設省首都国道工事事務所調査課長らは、外環工事には答えず、「堀之内南遺跡は低地で発掘が困難だから、調査方法等を検討中です」と答えました。当日参加した杉原重夫明大教授は「ルート上の堀之内・国分・菅野などは、埋蔵文化財が含まれている地域である。これから、すべてをきちんと調査するよう取り組んでほしい」と意見を述べました。県文化財センター調査本部長は、外環計画にかかわりなく、慎重な調査に筋を通しているという趣旨の発言がありました。

これからも、この地域の遺跡環境や風致地区を保存する気持ちで見守りたいと思います。

第9回バードウォッチング（報告）

平成12年4月30日（日） 晴天

ご案内 村岡幸生さん

〔確認された鳥〕

ツグミ シメ コジュケイ コゲラ シジュウカラ ムクドリ
オナガ キジバト ツバメ エゾムシクイ ハシブトガラス
ハシビロガモ カルガモ ヒドリガモ ヒヨドリ

すきとおるような浅みどりの森に集まったのは、村岡さんと11名のウォッチャー。初参加の方、レギュラーともいえる3組のご夫婦、とまとまりやすい人数である。

「今日は声のウォッチングになります」とおっしゃった通り、枝々に重なりあう葉にかくれて姿を見ることはむずかしかった。中国分の林では、村岡さんもはじめてというエゾムシクイの声を聞くことができた。金属的な高い声は金管楽器のピッコロの音色と表現しているかと思う。

次回は鳥たちの姿も見たいので、葉の落ちる11月ころになる予定。

巨大外環で北国分・矢切地区の生活環境に大打撃

—— 外環説明会でわかる ——

4月21日の松戸市三矢小台地区外環説明会でわたしたちが心配していたことが現実の問題になることがわかりました。

建設省首都国道工事事務所の説明資料をもとに略図をつくってみました。

料金所ができる場所付近は幅90m、北国分、三矢小台市境の交差点部分は80mです。

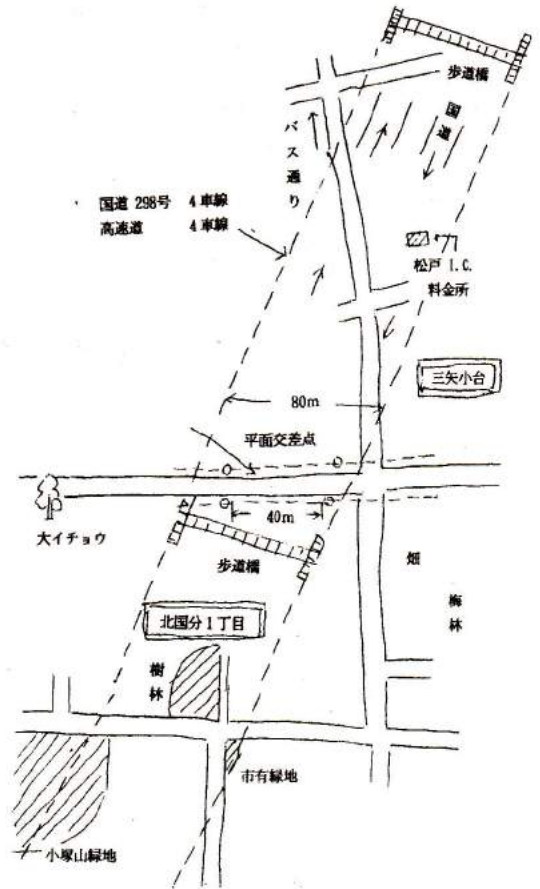
国道298号線は市川方面に北国分1丁目16の付近で高速道に乗り入れる計画です。

日常生活はどうなるでしょうか。いまは市川～松戸のバス停や矢切駅に行くのにわずかな時間で利用できます。外環ができると、車に気をつけながら信号機付きの幅の広い交差点を渡らねばならず、遠回りを強いられ、100mもある歩道橋を渡るにもお年寄りは大変です。住宅道路への車の出入りが激しくなり、交通事故のおそれもできます。

排気ガスはどうでしょう。外環は大型車が10台に3台以上の割合になる見通しですから、ディーゼルの排ガスによる健康被害は深刻になります。騒音も、三郷のジャンクションで測った時は200m離れた住宅地で60デシベルを超えていましたから、この外環路線両側から300mくらいでも、夜間、早朝の騒音が心配されます。空気の汚染で小塚山の森やあたご神社の大イチョウも、やがて荒廃してしまうでしょう。矢切地区・北国分地区の外環ルート上の貴重な遺跡環境（埋蔵文化財）は、今のままだとほとんど壊されてしまいます。

建設省は北国分の設計・用地説明会を考えているようですが、これを待たずにわたしたちの知恵と力でよく調べ、シンポジウムや要請署名を広げてゆくことが大切です。

外環工事の中止、小塚山の森を削るな、遊休外環用地の活用などの運動をご一緒に進めましょう。



コブシの花

矢崎 庄作

花といえば、まず「桜」というのが一般的ですが、小生にとっては「コブシ」が優先します。30年前、この地をついのすみかとして移住してきた翌早春、わが家に近接した雑木林や小塚山で咲いたコブシの花に接した時の感動は、今も鮮やかです。

小生が生まれ育った信州諏訪地方では見たこともなかった見事な花が、園芸用ではなく雑木林の中で無造作に咲き誇っている様子に、逞しさと気品すら感じました。

後日、地域にお住まいで、この花にちなんだ著書名を選ばれた著者に対し、そのお人柄そのものだとの思いを抱いたことも、昨日今日のように蘇ります。

中国分台地の東側、どうめき谷津沿い小径際、並木の桜が咲き誇る頃は、一足早く台地斜面を飾っていたコブシは、しばし桜の引き立て役をはたした後引退しますが、この斜面には、レンギョウの黄色や赤紫色のスオウなどが桜の点景となって、絶妙なコントラストを演出します。堀之内遺跡沿いの道路から、谷津を隔てて望むこの風景、特に朝日があたり始める頃の光景は、素晴らしいの一言に尽きる感じです。

こんな環境も、外環道路の建設に伴って破壊されることは、残念至極です。現在でも谷津の大半を埋め尽くしている青い金網が、折角の風景を台無しにしています。

庶民の怒り

悲しいかな、日本の政治家
もっと 知性を!

日本の政治家や行政マンは、開発こそ国を富まし、人間を豊かにすると考えているように思えてならない。

今も列島改造論を引きずっているのか、三番瀬の埋立て、海上の森をつぶす名古屋万博、そして非難をよそに強行した諫早湾干拓のギロチン。

また、クマタカの生息地に計画された道路に「撃ってしまえばいい」と放言した政治家がいたとか。

自然に対してあまりにも傲慢過ぎる。

(M)

緑のまち あれこれ

○ 北国分1丁目で遺跡調査がはじまりました。建設省は町のまんなかでの遺跡調査なのに何の説明もないまま、テントを張ってしまった。住民の要望で、やっと説明会を開いたが、道免き谷津の本調査も済まないのに、またこちらに手をつけるのはどんな意図なのかさっぱりわからない。ただ大きな重機類は使わない。土砂の運び出しはやらないとのことだった。

○ 市議会特別委員会傍聴。4月27日。

○ 緑のまち合唱団の新曲ができました。

「明日(あした)をひらく」 作詩 森 遊子 作曲 中村盈子

1 森をなくす道 通さぬため

声をあげよう 東に西に

やがて里山 樹の香り

笑いがほころぶ 家族のきずな

明るい街が 春を呼ぶ

さあ もう一度 未来のために

夜明けを告げる うた 高く

2 空をよごす道 ゆるさぬため

心つなごう 人から人へ

やがて青空 よみがえり

どこかで野の鳥 さえずりわたる

平和な街が 明日をひらく

(リフレイン)

—— 3番省略 ——

○ 1丁目在住の詩人青木徹さん、5冊目の詩集「存在という錯誤」を出版。また、市内在住の都市鳥研究家唐沢孝一さんは、「語り継ぐ焼けイチョウ」を刊行。戦争や地震で被災しながら逞しく甦った古樹を訪ねた記録です。

■編集後記■

今年は森の音楽会実行委員会が発足。スタッフも増え、アイデアいろいろでした。そのひとつが「クロマツを植えよう 小塚山に」でした。

